

十二年半勤めた聖ヶ丘病院（伊達市）を経て、五月一日から院長に就任した。本来、脾胃を中心とした消化器系を専門としているが、前職場では高齢者が多い地域だったた

院長 訪問

室設置など検査体制を強化しており、「今後十床前後の稼働で受け入れに余裕があることは糖尿病対策にも力を入れていく」考え。患者家族や町内会を対象に、糖尿病教室を月一回開催していくほか、八月から内視鏡内科と

No.1756
札幌ライラック病院

本庄恭補院長



医師と看護師、臨床工学技士が同乗する救急車で送迎を行う体制も整備した。

神経内科専門医が三人常勤し、ALSやパーキンソン病などの難病にも幅広く対応しており、「医療資源を有効に活用して、他にはない独自性を打ち出していきたい」と話す。

消化器系分野さらに充実

め、膝疾患と関係が深くニーズも高い、糖尿病の専門医資格を取得し、地元密着型の医療に従事してきた。

札幌ライラック病院 糖尿病代謝内科を新たに標準。 年生まれ。北大五十五年卒。

札幌ライラック病院 消化器内科医の増員や下部内視鏡の導入、専用九十床のうち、現在七区豊平六条八丁目

▽住所 札幌市豊平